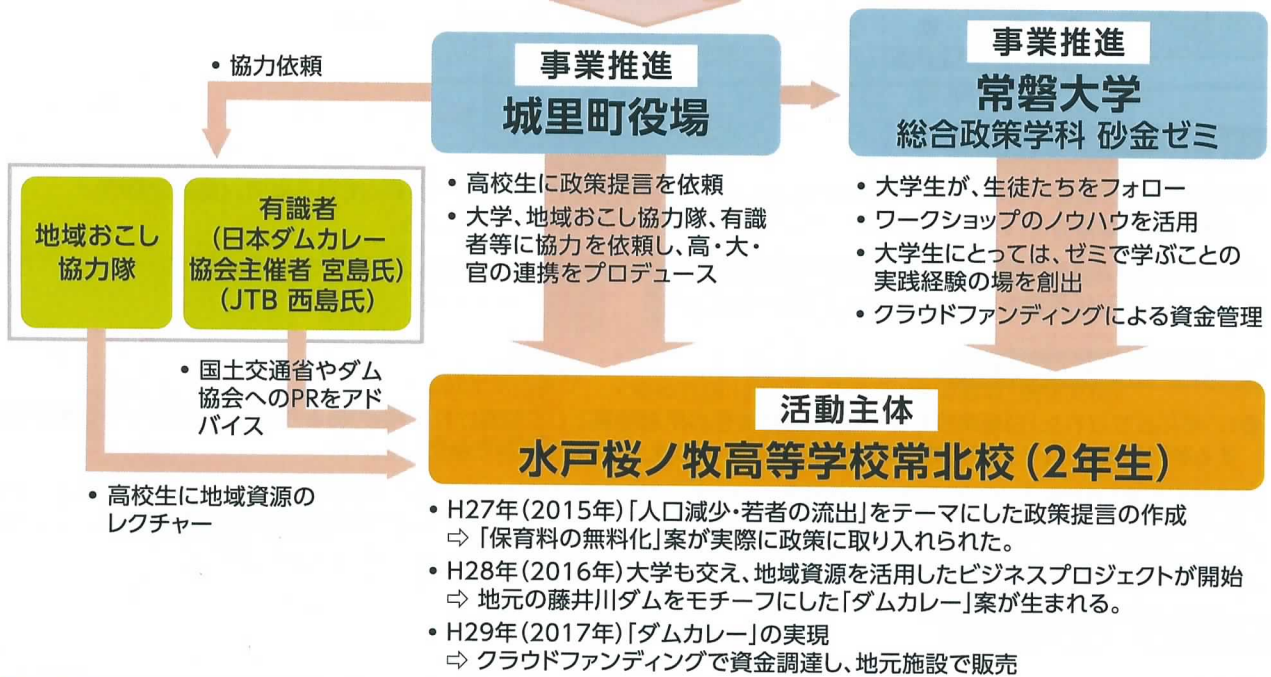


SBP関係者 関係図

城里町の課題：人口減少・若者の流出



【事業推進コーディネーター】城里町役場・常磐大学

〈城里町役場〉

- 高校・大学との連携をコーディネート。その他、地域おこし協力隊や有識者（日本ダムカレー協会主催者 宮島氏、JTB 西島氏）等も巻き込みながら事業を推進。
- 始めは、新しい取組に消極的だった役場職員や住民の反応も、ダムカレーの成功を機に町全体が若者を応援するという雰囲気へと変化していった。

〈常磐大学〉

- 常磐大学 総合政策学部総合政策学科の砂金准教授とゼミ生が協力。高校生をフォローする立場として高校生のグループワークに加わる。教授にとっては、大学生がゼミで勉強していることを実践経験する場の提供として前向きであった。
- クラウドファンディングという高校生には難しいと感じられる資金集めでは、主に大学生がPRを行い成功へと導いた。

【活動主体】水戸桜ノ牧高等学校常北校

- 高校としては、生徒数の増加や、地域とのつながりを強めたいという想いがあり、政策提言を考えるだけでなく生徒が実践できることが理想的だと考えていた。
- 活動は、「総合的な学習の時間」とホームルーム活動時間を使い、その年の2年生が行う。生徒をグループに分けて、ワークショップ形式で実施した。
- この活動を機に、卒業後は、常磐大学に進学する生徒も現れた。

【その他サポーター】地域おこし協力隊、有識者

- 地域おこし協力隊は、地域資源に関するレクチャーを行った。
- 「ダムカレー」の具現化に際しては、ダムカレー発案者の宮島氏を招き商品開発を行った。
- 観光としてのダムを推奨していたJTBの西島氏のアドバイスを受け、国土交通省とダム協会に高校生が「ダムカレー」のPRを行った。



クラウドファンディング達成時の様子

● 今後の展望

- 今後も、高・大・官連携を続けていきたいと考えているが、プロジェクトの持続性というところに課題がある。制度的な枠組みの必要性も検討していく。（城里町役場担当職員）
- 高校単体でも、地元食材を使った商品開発を行う等活動を続けている。生徒が何かしらの成果を残せる取組を今後も展開していきたいと考えている。（水戸桜ノ牧高等学校常北校教頭）